資料1

第1回　里地里山保全･活用検討会議資料

環境省における
里地里山の施策について

環境省　自然環境局
自 然 環 境 計 画 課

平成20年11月12日

里 地 里 山 を 巡 る 最 近 の 施 策 の 動 き

2002年	2003年	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年

新・生物多様性国家戦略
(2002年3月27日　地球環境保全に関する関係閣僚会議決定)

○里地里山の自然環境の危機を第2の危機に位置づけ
・社会経済状況の変化に伴い、里地里山における自然環境への人間の働きかけが縮小、撤退
・その影響により、絶滅危惧種の重要な生息地の5割が里地里山に分布するなど、顕在化した自然環境の質的劣化を第2の危機として位置づけ

第三次生物多様性国家戦略
(2007年11月27日　閣議決定)

○人と自然の関係の再構築を位置づけ
・将来に引き継ぎたい重要里地里山を選定するとともに、自然資源の新たな利活用方策、多様な主体の参加促進の方策などの検討を位置づけ。
・「SATOYAMA イニシアティブ」の世界への提案により、世界での自然共生社会づくりに貢献。

21世紀環境立国戦略
(2007年6月1日閣議決定)

○未来に引き継ぐ里地里山とSATOYAMAイニシアティブの位置づけ
・生物多様性の保全等の観点から、未来に引き継ぐ里地里山の選定、自然資源の新たな利活用の検討等を明記。
・世界の自然共生の智慧と伝統を再興し、さらに発展・活用することを「SATOYAMAイニシアティブ」と名付けて世界に提案。

G8環境大臣会合
(2008年5月・神戸市)
合意文書「生物多様性のための行動の呼びかけ」でSATOYAMAイニシアティブの推進を明記。

COP9
(2008年5月・ドイツ、ボン)
鴨下環境大臣がSATOYAMAイニシアティブの推進を表明。

洞爺湖サミット
(2008年7月・北海道洞爺湖)
G８環境大臣会合の合意文書「生物多様性のための行動の呼びかけ」を支持。

COP10 (名古屋市)

エコアジア
(2008年9月・名古屋市)
自然との共生を実現していくうえでのアジアモデル検討の重要性を強調。

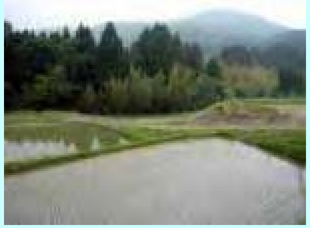
里地里山保全再生モデル事業 (2004～2007年)
・保全再生の実践的手法や体制等について具体的に検討・実施（神奈川西部、福井・京都北部、兵庫南部及び熊本南部の全国4地域5地区で実施。）

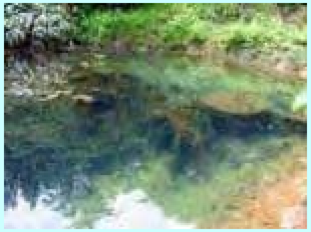
ホームページ「里なび」の開設 (2007年～)
・全国の里地里山の活動団体、専門家の情報等を紹介

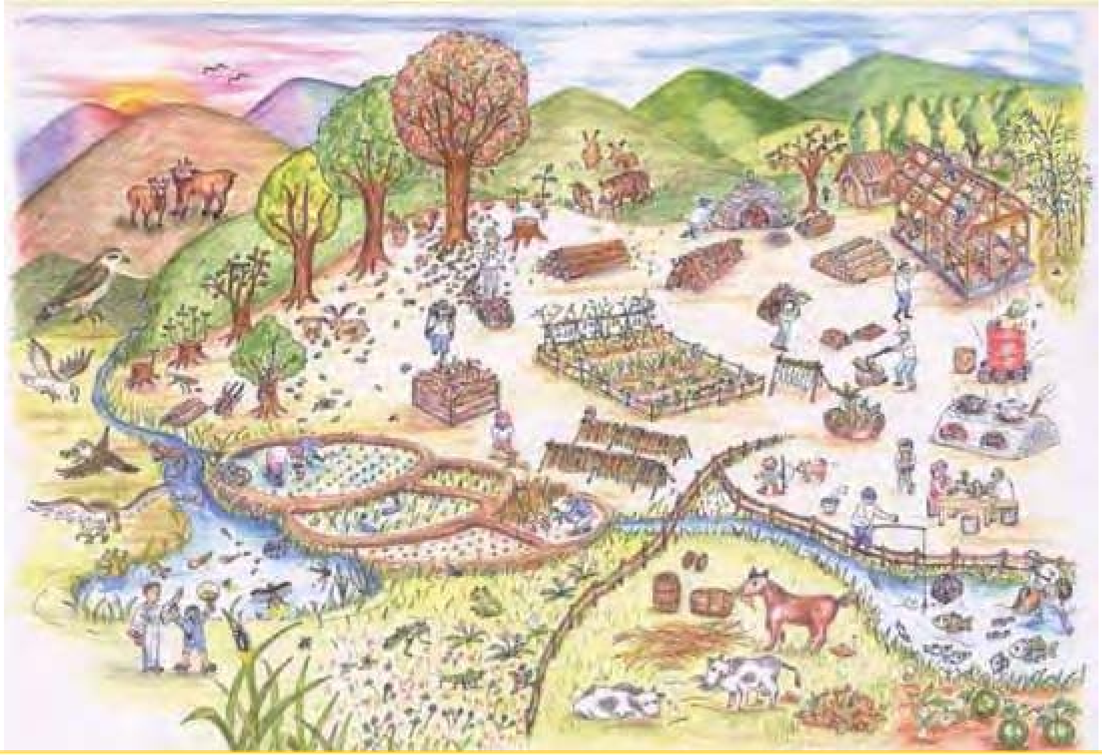
SATOYAMAイニシアティブ推進事業 (2008年～)
・重要里地里山の選定、地域の自律的な里地里山の保全再生方策の検討、ＳＡＴＯＹＡＭＡイニシアティブの検討を実施

生物多様性を育み、恵みをもたらす里地里山

様々な環境で構成



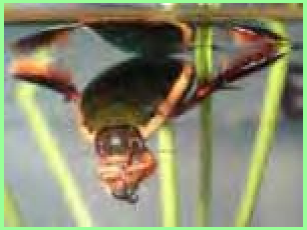




「里山」は集落をとりまく二次林を中心とした森林が広がる地域。里山とそれに混在する農地、ため池、草原等で構成される「里地里山」は、都市域と原生的自然との間に位置し、様々な人間の働きかけを通じて環境が形成されてきた地域であり、特有の多様な生物の生息環境を提供。

自然資源の利用

豊かな生態系



伝統文化の継承

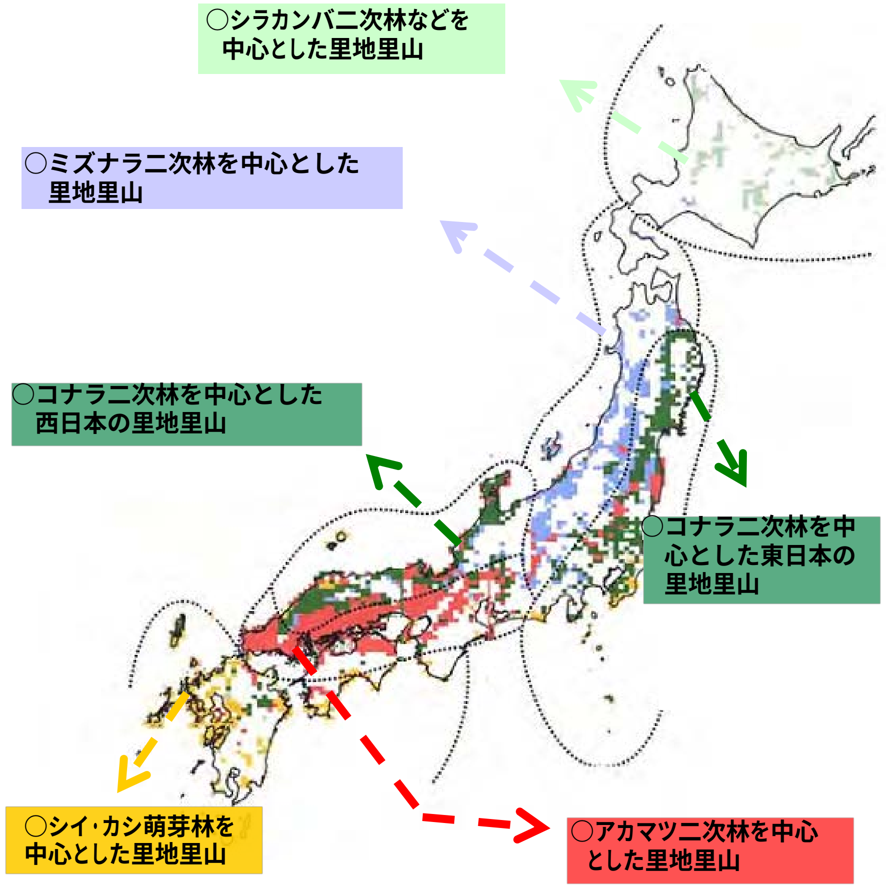
里 地 里 山 の 分 布 と 分 類

○里地里山の分布

○ 二次林、農地、草原といった自然環境が中心の地域である里地里山は約1，500万ha、国土の4割を占める。

○里地里山の二次林の植生によるブロック分類

里地里山（二次林や農地を主体とした地域）はその骨格となる二次林のタイプによって5タイプに分類され、6ブロックに区分。



生 物 多 様 性 の 劣 化 の 状 況 と 要 因

○里地里山と希少種の集中分布域の重複状況

環境省版レッドデータブックに掲載されている種のうち、植物種5種以上かつ動物種5種以上が生息している地域の5割以上が里地里山と重複。

〈生物多様性の劣化の社会的背景〉

○農山村地域の過疎化・高齢化
○農業の就業人口の減少と高齢化
○エネルギー源が薪炭から化石燃料へシフト
○人工的な整備の拡大
○不適切な農薬・肥料の使用

人工化した農業用水路

放置された竹林

自　然　観　察　や　環　境　教　育　の　場　と　し　て　の　利　用

○里地里山の活動フィールドの分布状況

○　里地里山は身近な自然環境として、市民団体等による自然観察会等の活動の場として利用

○　里地里山での活動のフィールドは全国で約1，000地点に及び、その約6割が関東、東海、近畿といった大都市近郊のもの。

○　特に、東京・大阪・名古屋の3大都市圏中心部から50kmの圏内に全体の34%が集中しており、都市住民からのニーズの高さを反映。

○ 里地里山活動フィールド
○ 3大都市の中心から半径50km圏

※　活動フィールドは、アンケート調査やインターネット調査で抽出（平成13年度公表）

地域住民による生物調査

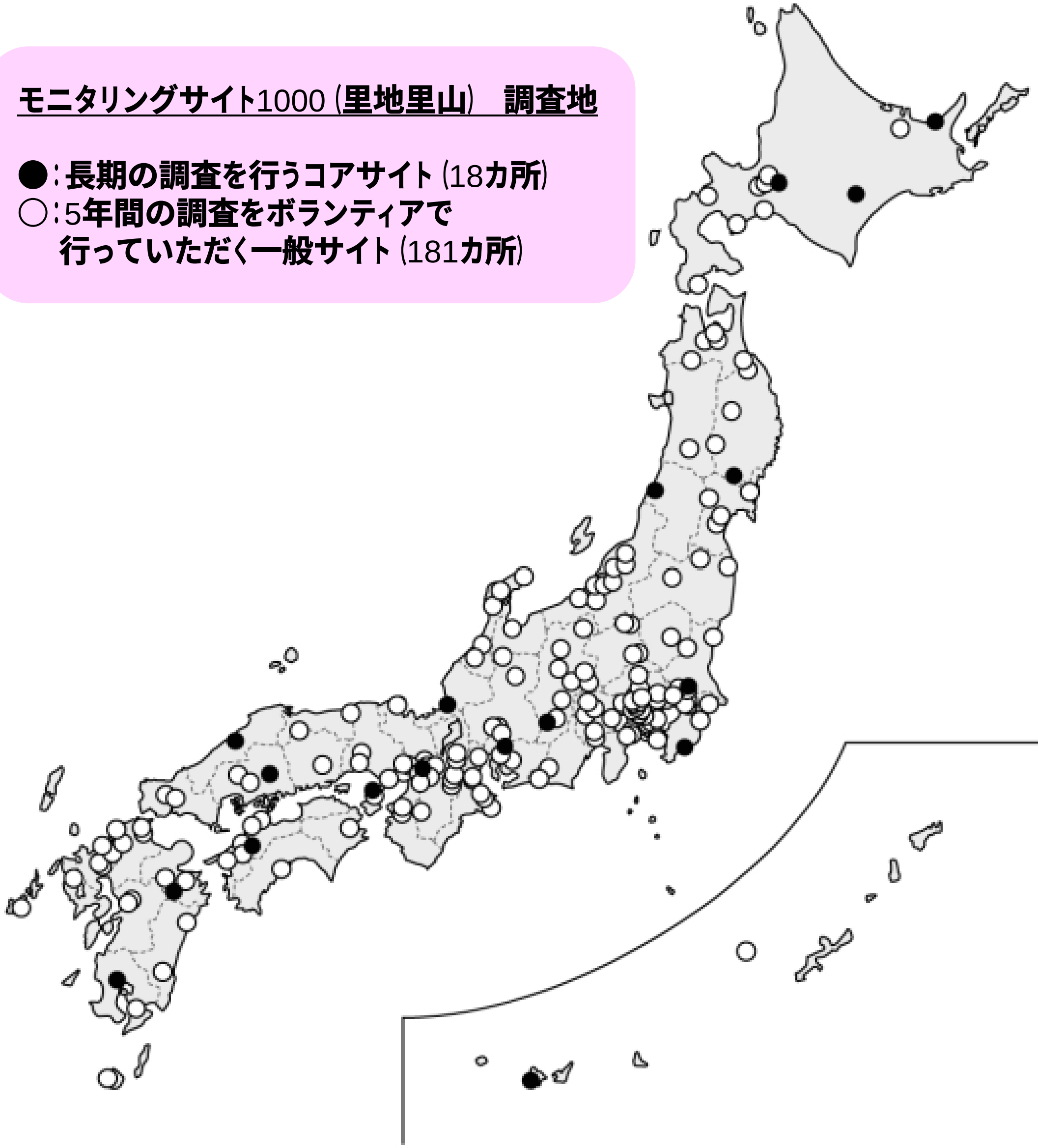
小学校の環境教育との連携（ビオトープづくり）

モニタリングサイト１０００（里地里山調査）

○モニタリングサイト1000（里地里山サイト）

モニタリングサイト1000（里地里山） 調査地

●：長期の調査を行うコアサイト（18カ所）
○：5年間の調査をボランティアで行っていただく一般サイト（181カ所）



- ○ 日本の自然環境の質的・量的な劣化を早期に把握するため、環境省では全国にわたって1000か所程度のモニタリングサイトを設置し、基礎的な環境情報を今後長期にわたって収集
- ○ 日本のさまざまな生態系の動向を把握するため、各地に見られる生態系タイプごとにモニタリングサイトを設置
- ○ モニタリングサイトは多岐にわたる項目の調査を長期的に行うためのコアサイトと、全国的な生態系の変化の傾向を把握するための一般サイトがある
- ○ 大学、研究機関、専門家、NPO、ボランティアなど多くの方々が調査に参加・協力

○モニタリングサイト1000（里地里山コアサイト）の調査項目

1 植物相
2 鳥類
3 水環境
4 中・大型哺乳類
5 指標種調査（カヤネズミ）
6 〃 （カエル類）
7 〃 （チョウ類）
8 〃 （ホタル類）
9 人為的インパクト

※ 一般サイトは上記から1項目以上調査

里地里山保全再生モデル事業の取組（平成１６年度～平成１９年度）

○ 地域懇談会と地域戦略

里地里山の保全再生活動に参加する多様な主体

- 国（環境省、農林水産省、国土交通省）
- 都道府県
- 市町村
- 地域住民
- ＮＰＯ
- ボランティア

↓

活動団体の連携を図る場の設置

↓

地域懇談会の開催（各地域約３０の団体が参加）

①自然環境・地域課題の詳細把握
②課題等に対する対応検討
③里地里山保全の方向性
④保全再生活動内容や、環境学習の実施など内容の検討
⑤活動の体制づくり・参加者の役割の明確化

↓

地域の里地里山保全再生の計画である「地域戦略」を策定

↓

地域戦略に基づき効率的な具体的保全活動の実践

必要に応じてフィードバック・地域戦略の改訂

↓

取組の成果を全国へ発信・普及

○ 各モデル地域での地域戦略に基づく具体的な保全活動

(1) 神奈川西部地域（神奈川県秦野市）

＜多様な主体が参加した二次林と谷津田の生物多様性の保全＞

専門家による研修の実施

落ち葉かき

(2) 福井・京都北部地域（福井県越前市、京都府綾部市、宮津市、福知山市）

＜里山景観の保全と希少種の保護を中核とした生物多様性の保全＞

ササ葺き民家の再生

希少野生生物の保護

(3) 兵庫南部地域（兵庫県三田市、宝塚市、川西市、猪名川町）

＜多様な主体が参画し地域資源を活用した里地里山の保全＞

里山林整備

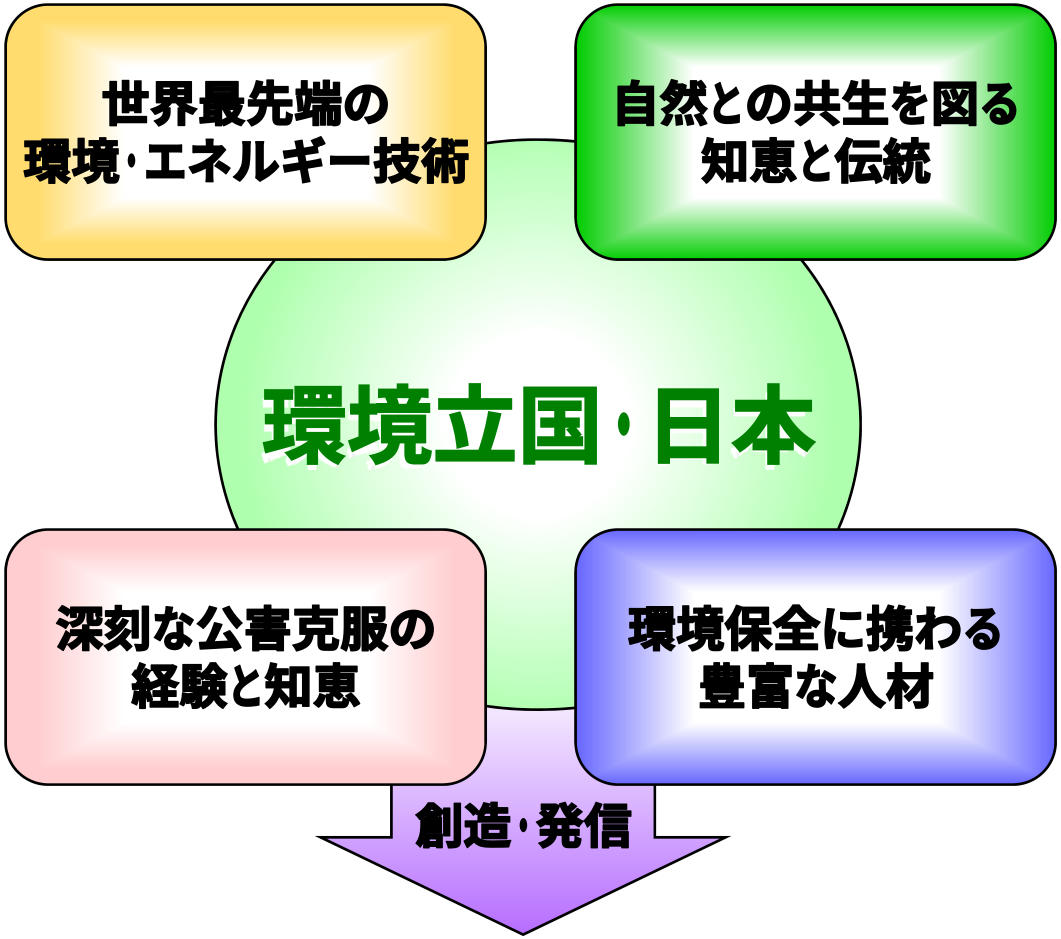
一庫炭（菊炭）

(4) 熊本南部地域（熊本県氷川町）

＜竹林の管理と里山を活かした環境教育の実施＞

竹材の整備

里山くらしの体験教育



アジアそして世界の発展と繁栄に貢献

自然との共生を図る智慧と伝統を現代に活かした美しい国づくり

- 古来より日本人は、自然を尊重、共生
- 里地里山のように、自然を単に利用するだけではなく、協働して守り育てる智慧と伝統が存在
- 自然と共生し、自然を守り育てる智慧と伝統は、持続可能な社会を目指す上で大きな意義
- 我が国の環境・エネルギー技術などの強みに加えて、自然との共生を図る智慧と伝統を現代に再び活かすことにより、自然の恵み豊かな美しい国づくりを目指す。

２１世紀環境立国戦略（H19.6）　～　今後1，2年で重点的に着手すべき八つの戦略　～

戦略1．気候変動問題の克服に向けた国際的リーダーシップ

戦略2．生物多様性の保全による自然の恵みの享受と継承

戦略3．3Rを通じた持続可能な資源管理

戦略4．公害克服の経験と智慧を活かした国際貢献

戦略5．環境・エネルギー技術を中核とした経済成長

戦略6．自然の恵みを活かした活力溢れる地域づくり

戦略7．環境を感じ、考え、行動する人づくり

戦略8．環境立国を支える仕組みづくり

国外に対する施策

①SATOYAMAイニシアティブの提案

- 自然共生社会づくりのための智慧を、わが国の里地里山を例に世界に発信
- 日本や世界各地に存在する**自然共生の智慧と伝統を再興・発展させて活用することを「SATOYAMAイニシアティブ」と名付けて世界に提案**

国内に対する施策

② 未来に引き継ぐ里地里山

- 国土の約4割を占める里地里山地域のうち、**未来に引き継ぎたい重要な里地里山について検討**
- 環境教育の場やバイオマスの利用など**新たな利活用方策を検討**し、都市住民や企業など**多様な主体がコモンズ（共有の資源）として管理し、持続的に利用する枠組みを構築**

第三次生物多様性国家戦略における里地里山の位置づけ

４　つ　の　基　本　戦　略

その1　生物多様性を社会に浸透させる

その2　地域における人と自然の関係を再構築する

その3　森･里･川･海のつながりを確保する

その4　地球規模の視野を持って行動する

○　**重要里地里山の選定**
- 未来に引き継ぎたい重要な里地里山を選定

○　**自然資源の持続可能な利用**
- 環境保全型農業の推進
- エコツーリズム、バイオマス等の利用

○　**多様な主体が共有の資源として管理していく仕組み**
- 農林漁業者だけでなく、自治体や、ＮＧＯ、企業、都市住民と協働
- 適正な管理のための情報や活動地域のネットワーク化

世界へ自然共生の提案
　～ＳＡＴＯＹＡＭＡイニシアティブ～

○　**自然資源を持続的に利用しつつ協働して守り育てる日本や世界各地の智慧と伝統を収集し、自然共生社会づくりに活かすことを提案。**

生 物 多 様 性 に 関 す る 国 際 的 な 議 論 の 経 緯

持続可能な開発に関する世界首脳会議（WSSD：リオ）

生物多様性条約（ＣＢＤ）採択　（１９９２年）

条約の３つの目的（第1条）
・生物多様性の保全
・その持続可能な利用
・遺伝資源から得られる利益の公正かつ衡平な配分

ＣＢＤ第６回締約国会合（ＣＯＰ６：ハーグ）　（２００２年）

「２０１０年目標」の採択
「２０１０年までに生物多様性の損失速度を顕著に減少させる」

ドイツ

Ｇ８環境大臣会合（ポツダム）　（２００７年）

Ｇ８首脳会合（ハイリゲンダム）　（２００７年）

「生物多様性」をＧ８で初めて主要議題として議論
付属文書：２０１０年目標に向けた１０の取組である「ポツダム・イニシアティブ」

ＣＢＤ第９回締約国会合（ＣＯＰ９：ボン）　（２００８年）

日本

Ｇ８環境大臣会合（神戸）　（２００８年）

「神戸・生物多様性のための行動の呼びかけ」の採択
（SATOYAMAイニシアティブ）
持続可能な自然資源管理のモデルを検討することにより、生物多様性の保全と持続可能な利用を促進。

Ｇ８首脳会合（北海道洞爺湖）　（２００８年）

ＣＢＤ第１０回締約国会合（ＣＯＰ１０：名古屋）　（２０１０年）

SATOYAMAイニシアティブ推進事業の概要（平成２０年度～）

里地里山の重要性

国土の約４割を占める里地里山には、
①特有の生物生息環境 (絶滅のおそれのある野生生物の5割は、里地里山に生息)
②国土保全・水源涵養、景観、文化等の観点からの重要性

過疎化･高齢化の進展

人為的な働きかけの減少により、生物多様性が質・量の両面から損失

⇩

生物多様性の3つの危機のひとつ (人間活動の縮小による危機) との位置づけ

国内における取組

地域が自律的に里地里山の保全再生に取り組む仕組みの構築

重要里地里山の選定

- 未来に引き継ぎたい、重要な里地里山を選定
- 課題に対する技術的支援の実施
- 他地域への取組の波及

自然資源の管理･利活用方策の検討

里地里山資源の伝統的な利用の促進、及びバイオマス、エコツーリズムなど新たな利活用方策の調査･検討

多様な主体の参加促進方策の検討

保全再生活動への、都市住民、民間企業等多様な主体の参画の促進策を検討

世界への発信

SATOYAMA イニシアティブ

「持続可能で循環的な自然資源の利用」という考え方は世界の生物多様性保全に資する普遍的な考え方

国内外の事例を収集･分析して、持続可能な自然資源管理のモデルを構築。
G８や生物多様性条約締約国会議等において、世界に提案･発信

生物多様性の視点に立った効果的な保全再生の全国的な展開

自然共生の地球規模での展開